

平成29年8月2日

東部農林振興センター 松江農業普及部

標 題	WCS用稲の収穫開始～最新のマルチヘッドを装着した収穫機が本格稼働しました～
-----	--

(ダイジェスト)

7月31日（月）、湖北WCS生産組合が、微細断が可能である最新のマルチヘッドを装着した専用収穫機を使って、ホールクroppサイレージ（WCS）用稲の刈取を開始しました。当農業普及部では、事前にWCS用稲をサンプリングして水分含量を測定し、適期収穫を指導しました。

湖北WCS生産組合は平成25年に設立、3法人を含む組合員30名で構成されています。今年度は「夢あおば」「ホシアオバ」「たちすずか」「たちあやか」等の品種が合わせて64ha作付され、早生品種である「夢あおば」から収穫が始まりました。

刈取は、組合員であるライスフィールド(有)が所有する汎用収穫機を用いて行われました。2台の収穫機（写真左・中）のうち1台は最新のマルチヘッドを装着しており、今期本格稼働を開始しました（写真中）。マルチヘッドの最小理論切断長は6mmで、それによって高品質で長期保存性に優れた稲WCSの生産が可能です。今回の収穫で、概ね理論値通りの長さに切断できることが確認されました（写真右）。

平成28年度に同組合で生産された約4,300ロールの稲WCSは、17%が松江市内の畜産農家へ、83%が松江市外の畜産農家へ販売されました。今年度は約4,000ロールを生産予定で、昨年と同様、約20%が松江市内、約80%が松江市外へ販売される見込みです。

当農業普及部では、収穫前にWCS用稲の水分含量を測定し、刈取適期を判断および指導しており、高品質な稲WCSが生産されるよう支援を行っています。



リールヘッドアタッチを装着した収穫機



マルチヘッドアタッチを装着した収穫機



切断長の違い

左：リールヘッドアタッチ
右：マルチヘッドアタッチ